

編集後記

(55巻 第5号 2009年5月)

岡山で行われた泌尿器科学総会が盛会のうちに終了した。看護師や医学部生も巻き込んだ特徴のあるプログラムが運営され、これからの泌尿器科学の方向性、泌尿器科医の活動のあり方が議論された。少し日程が長いようにも思われたが、土日が含まれたことで開業医の先生やコメディカルのかたも参加しやすかったのではないかと思う。学会は社会的な役割も持つが、全ての会員に貢献すべき存在でもあり、今後はこのような学会運営が求められるように思う。いずれにしても充実した楽しい学会だった。

私自身は「泌尿器科医の理想的なキャリアパス」に関して発表する機会をいただいた。泌尿器科医のリクルートには、医学生時代に泌尿器科に接する機会を増やす努力が必要であることを複数の教授が訴えた。医学生との「ぶっちゃけトーク」では、「泌尿器科」という名前のネガティブなイメージが指摘された。「尿路生殖器科」は硬い感じがするし、「後腹膜臓器科」ではなんのことかわからない。やはり「泌尿器科」を正しく理解してもらおう努力をし続けるしか無いように思う。

(小川 修)